セゾンエアコン　据付説明書・電気配線工事説明書

FDENP　401～1601

PFA012D601

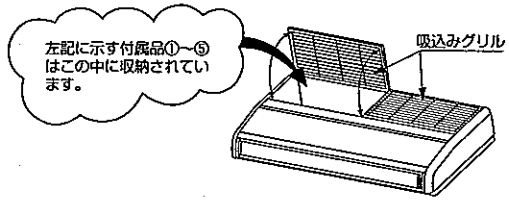
〈ご注意〉
○下記に示すような場所での据付、使用は避けてください。
●油の飛沫や蒸気の多い所（例：調理場、機械工場）
熱交換器の性能低下・腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。
●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある場所。
熱交換器の腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。又、可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
●病院などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近く。ノイズ発生によるコントローラの誤動作の原因となります。
●潮風が当る所（海浜地区）。外板、熱交換器の腐食の原因となります。
○下記に据付け上の注意事項を示しますので必ずお守りください。
●直射日光の当たる所にリモコンを設置しないでください。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
●アースを取ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は誤作動や感電の原因になることがあります。
●漏電ブレーカーの取り付けが必要です。漏電ブレーカーが取り付けられていないと感電や火災の原因となることがあります。
●エアコンの重量に十分耐えられる場所に確実に設置してください。据付けに不備があるとユニットの落下によるケガや振動及び運転音増大の原因になります。
●冷媒ガスが漏れた時、室内の冷媒濃度が限界濃度（0.3kg/m³）を超える恐れのある場合は、窒息防止のために隣室との間の開口部やガス漏れ検知警報と連動する機械換気装置等の取付けが必要となりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

〈お願い事項〉
○取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。
○長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようにお客様にご説明ください。
電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通電されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない・暖まらない	
断熱は完全に行いましたか。	水　漏　れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水　漏　れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない・暖まらない	

付属品収納場所（梱包時）



据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
○工事計画にあっておりますか。

機種・電源仕様
確認してください
配管・配線・小物部品

付属品

① リモコン　1個

② リモコン据付用

1	リモコンホルダー	1個	
2	リモコン用電池	2個	UM-4
3	木ネジ	2個	リモコンホルダー用

③ ドレン関係

1	ドレンホース	1個	ドレンホースクランプ付
2	断熱材	1個	ドレンホースクランプ用
3	固定金具	1個	ドレンホース用
4	ねじ(M4)	2個	固定金具取付用

④ 本体吊り込み用

1	平座金	8個	ユニット吊り下げ用

⑤ フレアナット部断熱用

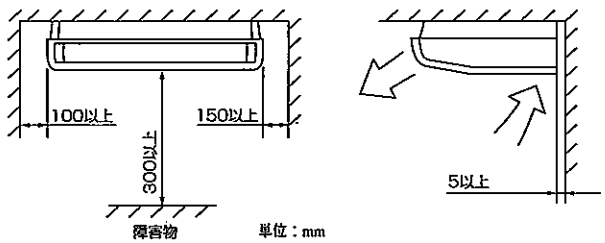
1	パイプカバー	1個	ガス側用
2	パイプカバー	1個	液側用
3	バンド	4個	

⑥ 本体据付関係

1	型　紙	1個	

据付場所の選定

室内機据付スペース



1．据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
●冷風または温風が十分行きわたる所。
据付高さが3mを越えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をお勧めください。
●室外への配管、配線のしやすい所。
●ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
●吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
●直射日光の当たらない所。
●周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。（天井埋込で据付ける際に、ユニット天面に断熱材を貼付ける等、高湿度の所に据付ける場合は本体の断熱等、露付に対する配慮をしてください。）
●受信部に強い照明光が当たる所は、避けてください。
●裏面の「ワイヤレスリモコンの操作距離」の項を参照し、ワイヤレスリモコンで確実に操作できる所を選んでください。
2．据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら、板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

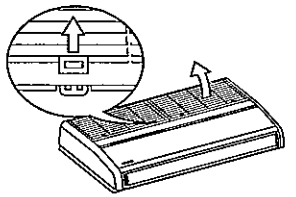
ユニットの搬入、据付

搬入

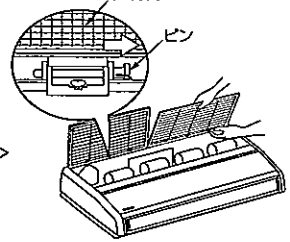
○搬入時は、できるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
○やむをえず解梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包みユニットを傷つけないよう注意してください。
（注）サイドパネル、吹出ルーバ等、プラスチック部分を持たないでください。
○解梱後、ユニットを置く場合は、必ずユニット床面側を上にして置いてください。

据付前の準備

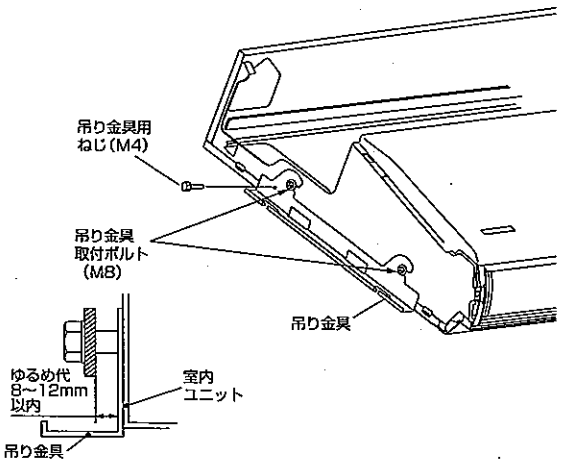
●吸込みグリルを取り外してください。
ストッパー（4箇所）をスライドさせてください。



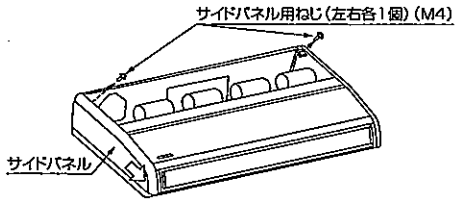
ピン（4箇所又は6箇所）を抜いてください。



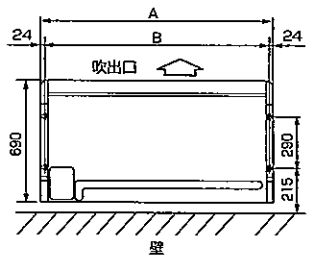
●吊り金具を取り外してください。
ねじを外し、取付ボルトをゆるめてください。



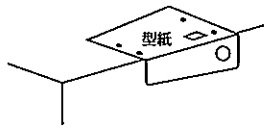
●サイドパネルを取り外してください。
ねじを外し、矢印方向にスライドさせてください。



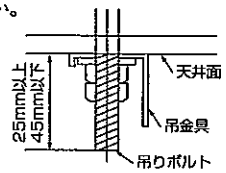
吊りボルトの位置



○付属の型紙を目安にして、吊りボルト位置、配管穴位置を選定し、吊りボルトの設置と配管用の穴あけを行なってください。
位置決定は、実測により行なってください。
位置決定後、型紙は取り外してください。



○吊りボルトの長さは下記寸法を厳守ください。

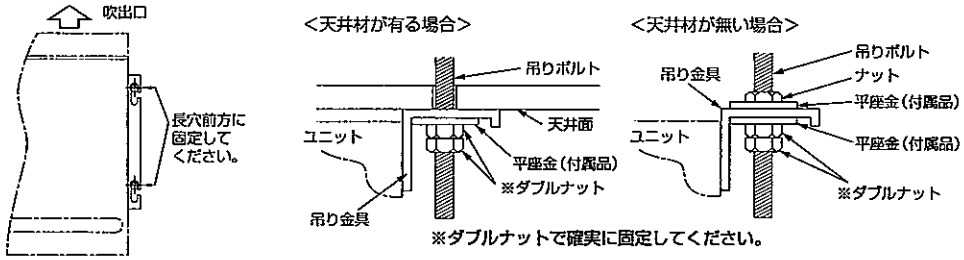


単位：mm

ハイパーインバータ	40, 45	50~80	112~160
標準機	40~56	63~80	112~160
A	1070	1320	1620
B	1022	1272	1572

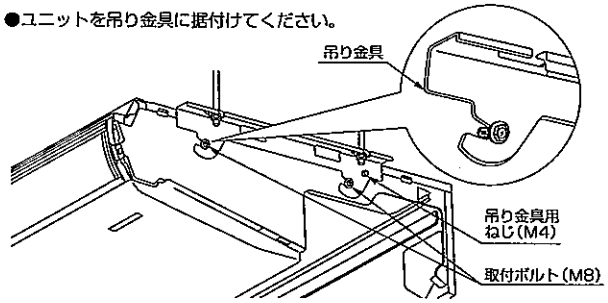
据付

●吊り金具を吊りボルトに固定してください。



※ダブルナットで確実に固定してください。

●ユニットを吊り金具に据付けてください。

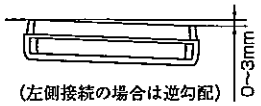


(1)吊り金具前方より、ユニットをスライドさせ、ボルトを引っかけてください。
(2)取付ボルト(M8)を左右4箇所確実に締め付けてください。
(3)ねじ(M4)を左右2箇所締め付けてください。

⚠ サイドパネルは、前から後方へ向け引っかけた後、本体に確実にねじ止めしてください。

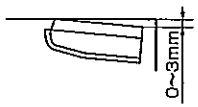
ドレン水の流れをよくするためユニットを排水側に下り勾配を設け据付けてください。

●左右方向
(図は右側にドレンホースを接続する場合)



(左側接続の場合は逆勾配)

●前後方向

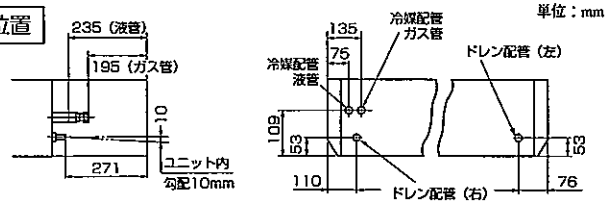


⚠ 逆勾配にすると水が漏れる恐れがあります。

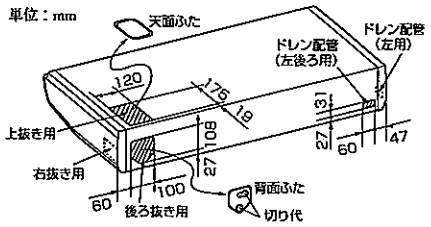
冷媒配管

は室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

配管位置



配管取り出し位置



配管取り出しは3方向より行えます。
穴はニッパ等により切り落としてください。
背面ふたは切り代に従って配管取り出し穴を切り抜いてください。天面ふたは配管位置に合わせて切り抜いてください。また、配管据付後、埃などが侵入しないよう、すきまをパテなどでふさいでください。
(ユニット内への埃の侵入防止およびエッジ部での配線損傷防止のため、背面・天面ふたは、必ず取付けてください。)

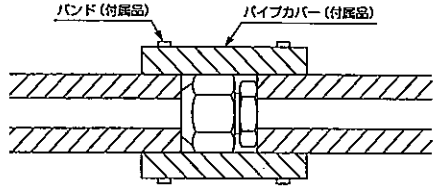
冷媒配管時の注意事項

フレアナット締付トルク

φ 6.35： 14～ 18(N・m), {1.4～1.8kg・m)
φ 9.52： 34～ 42(N・m), {3.4～4.2kg・m)
φ12.7 ： 49～ 61(N・m), {4.9～6.1kg・m)
φ15.88： 68～ 82(N・m), {6.8～8.2kg・m)
φ19.05：100～120(N・m), {10～12kg・m)

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

●ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。)
●フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。
●配管は下記材質のものをご使用ください。
なお別売配管セットを使用されると便利です。
(材質) リン脱酸銅継目無銅管 (C1220T、JIS H3300)
●室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。
●配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
●配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。



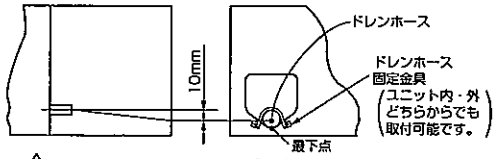
FDEN

ドレン配管

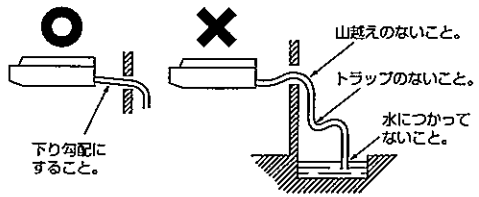
○ドレン配管の取出方向は、後向き、右向き、左向きがあります。
○ドレン配管を行なう場合は、必ず付属のドレンホース、ドレンホースクランプの断熱材をご使用ください。
①ドレンホースは、根本までしっかりと差し込んでください。
②ドレンホースクランプは、しっかりと締め付けてください。
③ドレンホースクランプを断熱してください。
○ドレン配管を左側にて行う場合、本体の左側配管接続口に付いているゴム栓と断熱材（筒状）を右側接続口に付け換えてください。

⚠ ドレンプラグを外す時には、水の飛び出しに注意してください。

⚠注意
ドレンホースは、下図のように付属の金具を用いて、たるみ無きよう最下点で固定し、10mmのドレン勾配を取ってください。
※電気配線がドレンホースの下に入り込まないようにしてください。



⚠ ドレンホースは金具で必ず固定してください。ドレン水がオーバーフローする恐れがあります。



配管施工後、排水が良好におこなわれていることと、水漏れのないことをご確認ください。

電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

Ⓐ 電源・室内外接続線

お願い
室内外接続線は3心ケーブルを使用してください。

⚠ 警 告

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧、ブレーカーを使用する。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

⚠ 注 意

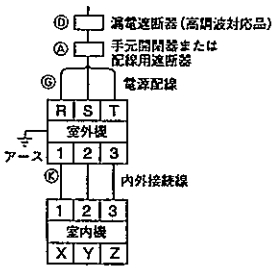
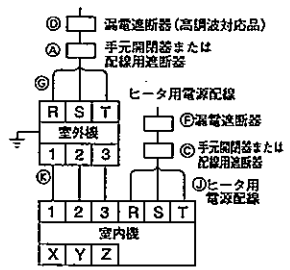
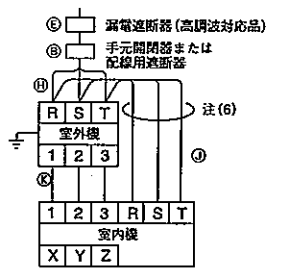
●アース工事を行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース線が不完全な場合は感電の原因になります。

●電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。

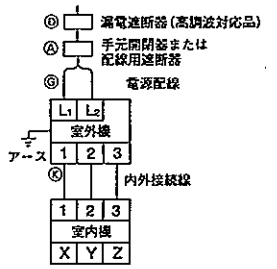
●正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線用遮断器）を使用する。大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災等の原因になります。

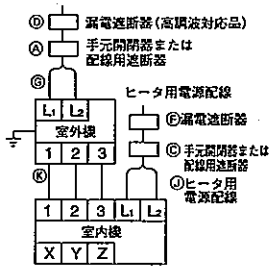
シングル機の結線

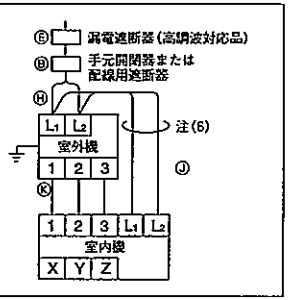
①電源の取り方は下表の接続パターンから選定し、行ってください。室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。（ヒータ用電源は除く）
※例外的な接続方法の場合は技術資料を参照のうえ、所轄の電力会社にご相談の上指示に従ってください。
②室内外接続線及びリモコン線は極性がありますので、必ず同一端子台番号間を接続してください。

	ヒータレス（含む冷専）	ヒータ後付時	
		標準的な接続方法	※ 例外的な接続方法
三相機			

単相機







開閉器・配線仕様

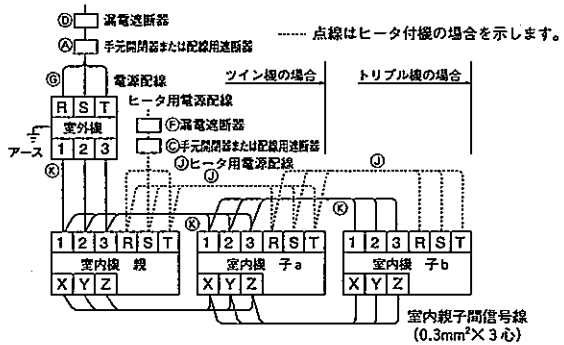
〈シングル・ツイン・トリプル機：ヒータレス〉

注 (1)配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
(2)室内外接続線Ⓚは総長70mまでとしてください。
(3)衝撃波不動作形のブレーカーを使用してください。

	室外機		漏電遮断器 注(7) 定格電流	手元開閉器 開閉器容量	手元開閉器 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(1) 太さ×本数	電源配線 注(1) こう長	内外接続線 注(1) 太さ×本数	アース線 太さ	アース線 ネジ
			Ⓓ	Ⓐ 注(8)			Ⓖ		Ⓚ 注(2)		
標準機・ヒータレス	単相	P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×2	23m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P63	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×2	20m	φ1.6×3	φ1.6	M5
	三相	P40～P63	15A,30mA,0.1sec以下	15A	15A	15A	φ1.6×3	29m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×3	33m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P112	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm²×3	32m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P140･P160	40A,30mA,0.1sec以下	50A	40A	40A	5.5mm²×3	23m	φ1.6×3	φ2.0	M5

	室外機		漏電遮断器 注(7) 定格電流	手元開閉器 開閉器容量	手元開閉器 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(1) 太さ×本数	電源配線 注(1) こう長	内外接続線 注(1) 太さ×本数	アース線 太さ	アース線 ネジ
			Ⓓ	Ⓐ 注(8)			Ⓖ		Ⓚ 注(2)		
ハイパーインバータ・ヒータレス	単相	P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×2	23m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P63～P80	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm²×2	24m	φ1.6×3	φ1.6	M5
	三相	P40～P56	15A,30mA,0.1sec以下	15A	15A	15A	φ1.6×3	29m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P63･P80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×3	24m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P112～P160	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm²×3	24m	φ1.6×3	φ1.6	M5

ツイン・トリプル機の結線



①室内親・子機間は端子台①②③及びⓍⓎⓏの同一番号間を接続してください。
②室内基板上のロータリスイッチSW2により、同一冷媒系統すべての室内機を同一アドレスに設定してください。
③室内子機は、室内基板上のアドレススイッチSW5-1,SW5-2により、子a～子cに設定してください。

④電源投入後、リモコンの「エアコンNo／点検」スイッチを押し、接続されている室内親・子機No.がリモコンに表示される事を必ず確認してください。

室内機の親・子設定方法

工場出荷時「親」設定		室内機 親	室内機 子a	室内機 子b	室内機 子c
室内基板アドレススイッチ	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

FDEN

〈シングル機：ヒータ付〉

注 (4)ⒶⒹⒼⓀの仕様については上表のヒータレスと同一です。
(5)配線こう長は、電圧降下２％とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
(6)室内外接続線Ⓚとヒータ用電源線Ⓙは必ず別ケーブルとしてください。
(7)電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器（三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品）を選定してください。
(8)漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）または、配線用遮断器が必要となります。

	室外機		漏電遮断器 注(7) 定格電流		手元開閉器		配線用遮断器	手元開閉器		配線用遮断器	電源配線 注(5)		ヒータ用電源配線 注(5)		アース線	
					開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長		
			Ⓔ	Ⓕ	Ⓑ 注(8)			Ⓒ 注(8)			Ⓗ		Ⓙ 注(6)		太さ	ネジ
標準機・ヒータ後付時	単相	P40～P56	30A,30mA,0.1sec以下	15A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	15A	15A	15A	φ2.0×2	15m	φ1.6×2	31m	φ1.6	M5
	三相	P40～P56	15A,30mA,0.1sec以下	15A, 30mA, 0.1sec以下	15A	15A	15A	15A	15A	15A	φ2.0×3	31m	φ1.6×3	50m	φ1.6	M5
		P63	20A,30mA,0.1sec以下		30A	20A	20A	15A	15A	15A	φ2.0×3	24m	φ1.6×3	32m	φ1.6	M5
		P80	30A,30mA,0.1sec以下		30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm²×3	34m	φ1.6×3	32m	φ1.6	M5
		P112	40A,30mA,0.1sec以下		50A	40A	40A	15A	15A	15A	5.5mm²×3	22m	φ1.6×3	25m	φ1.6	M5
		P140･P160	50A,30mA,0.1sec以下		50A	50A	50A	15A	15A	15A	8.0mm²×3	26m	φ1.6×3	25m	φ2.0	M5

	室外機		漏電遮断器 注(7) 定格電流		手元開閉器		配線用遮断器	手元開閉器		配線用遮断器	電源配線 注(5)		ヒータ用電源配線 注(5)		アース線	
					開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長		
			Ⓔ	Ⓕ	Ⓑ 注(8)			Ⓒ 注(8)			Ⓗ		Ⓙ 注(6)		太さ	ネジ
ハイパーインバータ・ヒータ後付時	単相	P40･P45	30A,30mA,0.1sec以下	15A,30mA,0.1sec以下	15A	15A	15A	15A	15A	15A	φ2.0×2	15m	φ1.6×2	31m	φ1.6	M5
		P50･P56	ヒータ（オプション）設定無し													
	三相	P40･P45	15A,30mA,0.1sec以下	15A, 30mA, 0.1sec以下	15A	15A	15A	15A	15A	15A	φ2.0×3	31m	φ1.6×3	50m	φ1.6	M5
		P50･P56	20A,30mA,0.1sec以下		30A	20A	20A	15A	15A	15A	φ2.0×3	24m	φ1.6×3	32m	φ1.6	M5
		P63	30A,30mA,0.1sec以下		30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm²×3	28m	φ1.6×3	32m	φ1.6	M5
		P80			30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm²×3	18m	φ1.6×3	32m	φ1.6	M5
		P112～P160	40A,30mA,0.1sec以下		50A	40A	40A	15A	15A	15A	5.5mm²×3	18m	φ1.6×3	25m	φ1.6	M5

〈ツイン・トリプル機：ヒータ付〉

注 (9) ⒶⒹⒼⓀの仕様については上表のヒータレスと同一です。
(10)配線太さⒿは20mまでの電圧降下(2%)を見込んであります。現地の配線が20mを越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
(11)室内機にヒータ装着した場合、室外機アース線太さを見直してください。

	室内機ヒータ合計容量（三相）	漏電しゃ断器 Ⓕ	開閉器（A） Ⓒ	配線太さφmm又はmm² 注(10) Ⓙ
ヒータ付	4.3kw以下	15A 30mA, 0.1秒以下	30	φ1.6
	5.0kw以下		30	φ2.0
	6.9kw以下	20A 30mA, 0.1秒以下	30	φ2.0
	10.0kw以下	30A 30mA, 0.1秒以下	30	5.5

室外形式	アース線	
	太さφmm又はmm²	ねじ
80	φ1.6	M5
112･140	φ2.0	M5
160	5.5	M5

Ⓑ リモコン

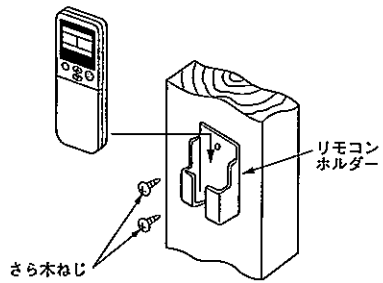
ワイヤレスリモコン（リモコンホルダー）の据付

お願い 次の位置は避けてください

1）直射日光の当たる場所
2）発熱器具の近く
3）湿気の多い所・水の掛る所
4）取付面に凸凹がある所

ホルダー取り付け時の注意

・垂直になる様、調節してください。
・ネジ頭が出ない様にしてください。
・土壁等へは取り付けないでください。



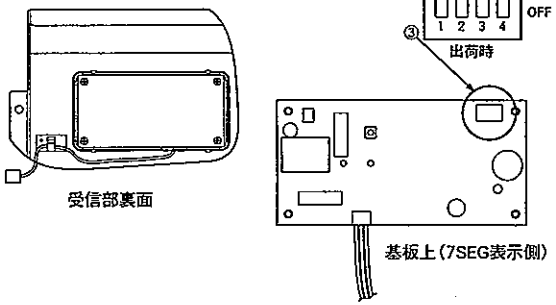
現地設定

受信部基板上のSWの設定は以下の通りです。なお、出荷時は全てONになっています。

SW1−1	混信による誤動作防止	ON：通常 OFF：切換
SW1−2	受信部の親子切換	ON：親 OFF：子
SW1−3	ブザー音の有無	ON：有り OFF：無し
SW1−4	冷専／ヒーポン切換	ON：ヒーポン OFF：冷専

＜設定を変更する場合＞

①フロントパネルを取外してください。
②受信部裏面のねじ4本を外し、基板を取外してください。
③基板上(7SEG表示側)のSWを変更してください。



＜混信による誤動作を防ぐ方法＞

受信部基板上のSW1−1をOFFにし、リモコン側も下記のように設定変更してください。

風向ボタンを押しながらリセットボタンを押すか、風向ボタンを押しながら電池投入をすると設定が混信防止設定へ切り換わります。

＜ラクリーナパネル(オプション)を使用する際の設定＞

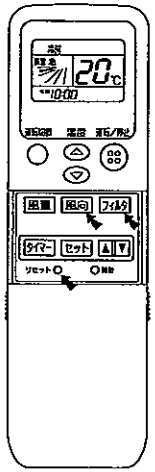
ラクリーナパネル(オプション)を使用する際、下記の操作にてリモコンの設定を変更してください。

フィルタボタンを押しながらリセットボタンを押すか、フィルタボタンを押しながら電池を投入するとフィルタ自動昇降モードに切り換わります。

(本設定を実施すると、ラクリーナ操作時ディスプレイ右上に『フィルタ自動昇降』と表示されます。)

※ご注意：一度電池を取り外すと初期設定(工場出荷時設定)へ戻ります。電池を取り外した時は、再度、上記操作を行ってください。

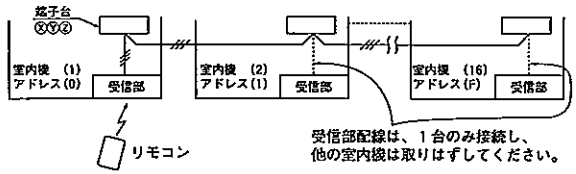
上記操作方法を必ずお客様に説明してください。
(操作方法はエアコン本体に付属の取扱説明書にも記載してあります。)



1リモコンによる複数台室内ユニット制御

室内ユニット最大16台まで接続可能です。

①各室内ユニット間を3心の渡り線にて配線してください。
渡り線については下記を参照願います。
②受信部配線は、リモコンで操作する室内機1台のみ接続しておき、他の室内機は、端子台 ⓧⓨⓩからはずすか、端子台～受信部間のコネクタCnB(3極、白色)をはずしてください。
③室内基板上のロータリースイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないように「0」～「F」に設定してください。



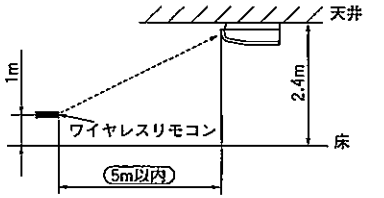
渡り配線を延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

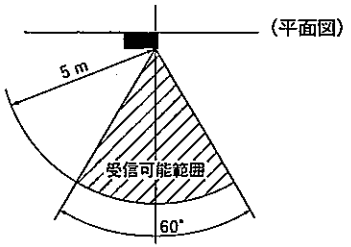
コードは必ずシールド線を使用してください。
●全形式：0.3mm²×3心〔MVVS3C（京阪電線)〕
注(1)延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。
100～200m以内……0.5mm²×3心
300m以内……0.75mm²×3心
400m以内……1.25mm²×3心
600m以内……2.0mm²×3心
●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。

※ご注意：左記のような接続の場合、2つまで受信部の使用が可能です。2つの受信部を使用する場合、いずれか一方の受信部基板上のSW1-2をOFFにし、子とする必要があります。
(切り換えは、本説明書 現地設定 をご覧ください。)
また、その他の受信部は使用できませんので、コネクタは接続しないでください。(コネクタを接続しない受信部のLEDの表示はできません。)

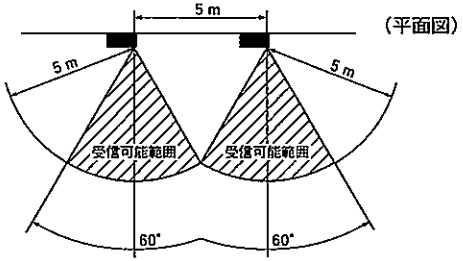
ワイヤレスリモコンの操作距離

①標準的な受信距離
［条件］受信部照明度360ルクス
（一般事務所でPAC周辺1m以内の天井面に照明がない場合）





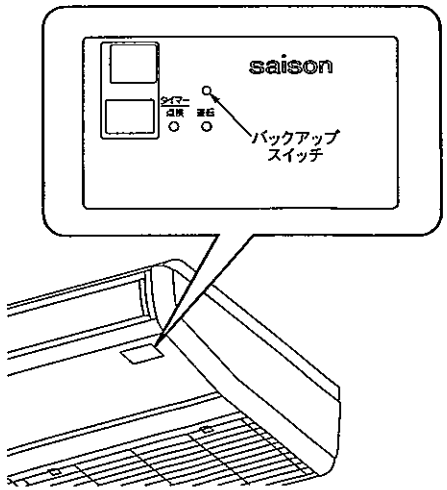
②複数台近接設置時の注意
［条件］受信部照明度360ルクス
（一般事務所でPAC周辺１m以内の天井面に照明がない場合）
前述の混信防止設定時にリモコンを使用した場合、同一動作を防止できる最小距離は5mです。



○リモコンスイッチを正しくエアコンの受信部に向けて操作してください。
○操作距離は、受信部照明度、部屋壁面の反射状態により変化します。
○受信部に直射日光・照明等の強い光が当たっている場合は、操作距離が短くなったり、受信しなくなる場合があります。

Ⓒ バックアップスイッチ操作

パネル表面受信部にバックアップスイッチ装備しています。
ワイヤレスリモコン操作ができない場合（電池切れ、紛失、故障）に応急的に使用してください。操作は手で直接してください。
(1)停止中に押すことにより自動モード（冷専は冷房モード）で運転します。
風量「急」　温度設定「23℃」　ルーバ「水平」
(2)運転中に押すことにより「停止」します。
(3)ラクリーナパネル（オプション）使用時、２秒以上押し続けてから離した場合、オートリフトパネル上昇となります。



Ⓓ 冷房試運転操作

●受信部バックアップスイッチを押しながらワイヤレスリモコンにて冷房運転を送信してください。
●試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。

※試運転時、正常に動作しない場合は、室内・外ユニットに貼付けの結線銘板の点検表示を参照し、点検してください。

Ⓔ 2桁表示の見方

受信部に２桁表示（７セグ）を装備しています。
(1)表示は電源投入後１時間表示します。
(2)エアコン停止中に、ワイヤレスリモコン「停止」信号送信により3.5秒間表示します。
(3)以上の表示は、運転開始により消灯します。
(4)異常履歴がない場合は接続台数分のアドレスを表示します。
(5)異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
(6)異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらワイヤレスリモコン「停止」信号送信によりクリアされます。